日刊 動労千葉

82.11.11

No.1192

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二ー八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！ 三里塚ジェット闘争勝利！

当局の忠実な番犬＝動労「本部」革マル弾劾

またも！57・1ダイ改で大裏切り

鉄労と手を組んで、闘う国鉄労動者に背後から襲いかかる動労「本部」革マル反動分子を粉砕・一掃せよ！

全ての組合員の皆さん、全国の国鉄労働者の皆さん！

政府・自民党・国鉄当局はいよいよむき出しの反動姿勢をもって全体重をかけて57・1ダイ改強行突破ー国鉄労働運動解体の攻撃にうって出てきた。ダイ改に伴う労働条件の変更・改悪に対する全く当然の抵抗・要求ですら頭からはねつけ、ただ「従え」と、一方的〝通告〟のみで押し通そうとする当局の姿勢は、明らかに労働組合そのものを無視・抹殺し、労働運動を根本から敵対し解体しようとする断じて許せない暴挙だ！

「業務命令」→「従わなければ処分」だと……！

こんな事がどうして許せようか！

こうした未曽有の大反動攻撃に対し、今や国鉄労働者の怒りは頂点に達し、つぎつぎと反撃は開始されつつある。

10月反戦・反核・三里塚の政治的高揚としっかりと結合されて臨調粉砕・反合の職場の闘いも爆発的な成長をとげ、人勧・仲裁凍結打破、自民党反動政治打破の12月ゼネスト貫徹へむかって、階級情勢は日一日と熱をおび壮大な階級的激突に向って煮つまっている。断じて「今は冬の時代（動労革マル）」などではない！決戦的激動への入口だ。

ところが、まさにこの時に、右翼腐敗集団鉄労と手をとり合って、政府・自民党・国鉄当局のいいなりになって早々と屈服したばかりか、それにとどまらず、必死で闘っている労働者の背後にまわり襲いかかり、闘争圧殺・組織破壊に血道をあげるという断じて許せぬ攻撃を開始した動労「本部」革マル反動分子をトコトン断罪し、全労働者階級の名にあいて一刻も早く粉砕・打倒し、一掃しなければならない。「プルトレ旅費」での裏切りをはじめ、「パス」も「現協」も、我々が血と汗で闘いぬき勝ちとってきた全ての財産をつぎつぎと売り渡してきた動労「本部」革マルが、ついに「57・1ダイ改」では「業務命令→処分」攻撃を公然とよびこんだ事は明瞭だ。「労こう運動」の本性はこれだ！動労「本部」革マル反動分子の本性はこれだ。闘う労働者を敵に売り、「闘うべきではない」と闘争を圧殺し、ストに反対してまわる彼らを粉砕・一掃せずして、日本の労働運動の勝利は無い。怒りをこめて彼らを粉砕・一掃しよう！

12月全一日ストを実現しよう。国労はじめ闘う労働者と共に、わが動労千葉1300は、その最先頭に立ってこの激突を闘い、牽引し、勝利への突破口をきりひらこう！

国鉄当局 国労に「業務命令」へ

（11/9 朝刊）

新ダイヤ非協力闘争に強硬策

従わなければ処分

きょう 全国管理局会議で指示

15日まては説得続ける

15日に大宮駅で抗議行動 新ダイヤで独自

動労・鉄労等の闘わずしての早々の屈服＝裏切り妥結、が、当局の反動的・高圧的攻撃をよびこみ、助長している

拡大

また新ダイヤに移行すると職員の仕事のやり方が変わるため、労働条件について労使の合意が必要だが、国労、全動労を除く動労、鉄労、全施労の三組合は八日までに、それぞれ「大筋は了解した」との方針を国鉄本社に伝えており、十一月十五日までには正式調印する見通しになっている。

このような状況のなかで、国労だけ他の組合と違った労働条件で妥結することは事実上、不可能になりたとえトップ交渉をおこなったとしても妥協の余地がない。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！